

新しいプログラムに挑戦！

10月例会 ワークショップ 「やってみましょう 回転寿司！」 藤井 和代

回転寿司とは、話し手と聞き手の座席が順に動いていくので、あたかもレーンに乗ってクルクル動いていくお寿司に見える為、その名前が付けられました。

2列に並び、向き合った人とお互いに挨拶からはじまり、テーマの「春と秋どちらが好き？その理由について、1回目は3分間、相手を変えて2回目は2分間、相手を変えて3回目は1分間で、同じテーマで話をするのです。

この効果は、話す時間が縮まってくるので、一番伝えたいメッセージが自然にまとまってくる事を実感しました。話す側は、スムーズに話ができるようになり、又、聞く側はより興味深く相手の話を聞くという訓練となりました。ワイワイ・がやがやと楽しいプログラムになりました。



ワークショップ 「インプロバイゼーション」 柴田 裕美

インプロバイゼーションは即興劇とも言われています。非日常的な即興劇を行なう事によって、言葉に頼らず自由に表現したり、発想力や想像力、観察力等を養ったりする事が出来ます。

インプロの目的は、恥ずかしさを克服する事、つまりこのままの自分で良いのだと思える事です。また豊かな表現力を養う事です。身体を使って表現するので、スムーズに話をする事が出来ます。効果は①人前で演じる事によって、恥ずかしさが取れてくる。②演じる事で声色や動作の一つ一つに表現力が増してくる。③無言で演じた後から台詞をつけるので、即興の要素が含まれる。④演劇と言う非日常的体験の中で他者の立場で

物を見、考え、発話する機会を得られる事で、何時もの自分でない自分を演出し、表現・表出する喜びを味わう事が出来る。インプロを体験し、話すときの不安や恥ずかしさを克服しましょう！ 4グループが大熱演！！大爆笑の連発！！ 役者揃いの千里クラブにピッタリでした。



11月例会 プログラム 「対話による評価」 浦濱 恭子

「対話による評価」は、文字通り、評価者とスピーカーが対話しながら評価を進めます。通常の評価と違い、事前に十分な打合せをして、スピーカーは評価者に、改善点や疑問点を質問します。

今回、野村・辰巳、中村・浦濱の2組が取り組みました。中村・浦濱チームは、例会前に2回、対話による評価を行ない、例会ではスピーチコンテストを想定して、カテゴリー・論題・題目と、スピーチの内容をどう合わせるか？ 一番、言いたいメッセージは何か？ について対話しました。他の利用法として、新しい会員が評価を学ぶ

時、スピーカーから質問できるので良い方法です。また、外部で発表する前に、対話による評価を受けると自信がつきます。相談できる第三者に加わってもらい、客観的な立場から助言してもらおう方法も考えられます。この機会に、「対話による評価」を有効活用してみませんか？

